
シープ革について

清水産業株式会社 専務取締役 清水 正 訓

本稿は、皮革科学 vol.52, No.4, pp.153~157 (2007) を転載させていただきました。

1. はじめに

羊毛（ウール）は天然繊維として、利用範囲は多岐にわたり、その産毛量は洗い上げベースで153万トンと、全世界で生産されるすべての繊維の3%を占めている（IWS「WOOL FACTS 1997」による）が、今回は皮革産業の立場から、羊革及び羊毛皮に関する情報の1部をまとめてみた。

2. 羊概論

2.1 歴史

羊はその目的によって様々に改良され、現在数百種（千種以上との説もある）の品種があるとされて居り種々の分類方法がある。

飼育の目的による分類では毛用種、肉用種、毛肉兼用種、乳用種、毛皮種など。毛の品質による分類では、細毛種、中毛種、長毛種、短毛種など。更に山岳種、丘陵種、低地系種などの原産地の土地の高低による分類が有る。

毛の品質の分類による品種の一部を例に挙げる。

- (1) 細毛種—メリノ、ランブイエ等
- (2) 中毛種—コリデイル、シュロプシャー、サウスダウン、サフォーク等
- (3) 長毛種—イングリッシュ・レスター、ボーダー・レスター等
- (4) 毛皮用種—カラクール（アストラカ）、ロマノフ等。

細毛種のメリノはスペインの原産で、多くの国で羊の改良に貢献した品種であり、オーストラリアン・メリノ種が代表的な品種である。中毛種のうち、ほとんどの黒顔種は肉の方が毛よりも高く評価されて居り、クロスブレッド系種（メリノ系の毛用種とイギリス産の肉用種を交雑したものを基礎群として作り出された雑種）のコリデイルはニュージーランドの原産で毛肉兼用種である¹⁾。

3. 皮革産業の立場から見た羊

羊皮は古くは羊皮紙（パーチメント）として用いられたが、羊革は薄く、柔らかく、手触りの良い美しい銀面、スエード面を有しているので衣料用革及び甲革用、ブーツ用等の靴用革として又、ドレス手袋、ゴルフ手袋、バッティング手袋、ドライブ手袋等の各種手袋用として更に本の装丁用、手芸用、袋物用等にも用いられている。

以前はホルマリン鞣、明バン鞣、アルミ鞣が主体であったが、今日ではクロム鞣、アルデヒドとクロムのコンビネーション鞣、植物タンニン鞣及び植物タンニンと他の鞣剤とのコンビネーション鞣等が行われている。

では皮革産業の立場から見た羊は、どのような種類に分類されるのだろうか。

ウールとヘアー

羊と似ている動物に山羊（やぎ）がいる。

山羊も羊もツノがあり（羊にはツノがない種類もある）、足のヒズメが割れていて、全く同じように見える場合が多い。ただ、明らかな違いは、山羊の雄にはアゴヒゲがあり、羊には見当たらない。

ヒゲの有無はつまらない事のようにであるが、実は、羊が衣料や敷物用原料として育てられてきた秘密がここにある。

山羊の毛はヘアー（Hair）といって、アゴヒゲに代表されるように硬くてツヤがあり、人間の髪の毛に近いものである。

羊の毛はウール（Wool）といって、持つと細くよく縮れふっくらと感触の優れたものが多い。人間ははじめから家畜として現在のような柔らかい毛に覆われた羊を飼っていた訳ではない。中央アジアの高原に現在もいる野生の羊のように、褐色の硬い毛をもった羊だった。野生の羊は、秋から冬にかけての寒い時期に、体の表面の硬い、長い毛の下に柔らかい毛を生やす。このような羊を季節と関係なく、全体に柔らかい毛が生えるように変えたのは、人間の長い時間をかけての苦心と努力だった。²⁾

この山羊の毛、ヘアー（Hair）と羊の毛、ウール（Wool）の呼び名に基づくと考えられる呼び名が皮革業界で羊に関して用いられて居り、ヘアーシープ（Hair sheep）とウールシープ（Wool sheep）と呼ばれている。

3.1 ヘアーシープ（Hair sheep）

ヘアーシープは山羊（ヤギ）に良く似た羊で、毛用種として改良されず、ほぼ原種のまま肉用種または乳用種として存続している直毛種の羊である。主として赤道を中心とした緯度、南北15度の範囲の熱帯地方で飼育されている。エチオピア、ナイジェリア、イエメン、インド、インドネシア等暑い国々に産する羊なので、毛質は悪いが、

皮は薄くて丈夫である。

特にエチオピアシープスキンは大変柔らかく鞣し上げる事が出来る上に、サイズが1枚当たり40～50D.S.の革は0.45～0.50ミリの厚さにしても丈夫な為、ゴルフ手袋用、バッティング手袋用等のスポーツ手袋用そしてドライブ手袋用として重宝がられて居る。特に高地に棲む“Salalie sheepskin”は最高の品質を誇っている。しかし、サイズが1枚当りの平均が40～50D.S.と小さい革が多く、銀面にキズもあるのでわが国では主として上述のスポーツ用手袋革として利用している。

同じくヘアーシープの仲間であるインドのレッドヘアーシープスキン（Red Hair Sheepskin）は平均サイズが50D.S.はあり、クロムと合成タンニンで鞣された革と、植物タンニンで鞣された革の2種類がインドから輸出されているが、クロムと合成タンニンで鞣された革は銀面のキズが目立つ為、主としてスエード使いの靴用革及び衣料用革として使用されている。

又、植物タンニンで鞣された革はE.I.ランドシープと呼ばれ、衣料用、靴用、袋物用、手芸用及び手帳や本の表紙用としても用いられている。

インドネシア産の羊革も、スポーツ手袋用、ドレス手袋用として利用されて居り、平均サイズは45～55D.S./枚である。

南アフリカのCape Townにちなんで名づけられたCape skinもヘアーシープの仲間、平均サイズは55～60D.S./枚で、古くからドレス手袋用革として用いられてきた。今日では本当のCape skinは少なくなったが、歴史ある呼称である。

また、キャブレッタ（Cabretta）は本来ブラジル産のヘアーシープで、今日では南アメリカ、西、東アフリカ産のヘアーシープを指す。

3.2 ウールシープ (Wool sheep)

名前の通り主としてウール (羊毛) を取る為に飼育されている巻毛種の羊で、ヘヤシープが暑い国々で飼育されている羊に対して、全体を長い毛で覆われているウールシープは主として南北緯度45度~60度の比較的気温の低い地域で飼育されている毛用種の羊である。

栄養分が主に毛の方に廻るため、皮質はヘヤシープに比べて劣り、革原料としては良質な物とは云えない。

銀面層と網様層 (床面) の境界面に脂肪層が存在する為、鞣しを行う時に脱脂をする事により (脂肪が残ったまま鞣しを遂行しようとするすると鞣剤が吸収結合しにくく、ボール紙の様な硬い革となり使用できない) 空隙が多くなり銀面と床面の境界部分から2層に剥離しやすい。

その為、あらかじめ生皮で銀面層と床面層の2枚に分割分離し、銀面をスカイバー (Skiver) として植物タンニン鞣 (主としてスマックによる鞣) を施し、ビン革 (紳士帽の内側に汗取りの為に縫い付けて使用するベルト状の革) や本の表紙として使用している。

一方、網様層の床面 (Fleshers) は、主にセーム革 (Chamois leather - 自動車やメガネレンズ等の拭きものに使う洗濯する事の出来る革) を作るのに使われている。

近年、銀面と床面との間の空隙が原因で生じる銀面の亀甲状の模様が面白いとの事で、あえて凸凹の銀面のまま衣料用革として使用されるケースも多い。しかし、物理的な強度に劣る為、着用中に破れたり、銀面が剥離したりするケースがある。

オーストラリアで多量に飼育されているメリノ種の羊は、羊毛用としては重要な品種の羊だが、皮にリブ (肋骨) の跡があり、薄くて弱いためムートン等の毛皮以外には

あまり使用されていない。

ニュージーランドで飼育されている羊は肉用種とメリノ種を交配したクロスブレッド種が中心で、メリノ種に比べて不規則で、大きい縮れ毛になっているのでカーペットや布団、手編み毛糸などに向いており、毛の付いたまま鞣されたムートンとして敷物などに多用されている。

皮質はオーストラリア産メリノ種より良く、前述のスカイバーやセーム革及び衣料用革としては主にニュージーランドの羊皮が使用されている。

また、イギリスに産する羊はEnglish Domestic Sheepskinと云い、ニュージーランドの羊皮と良く似た用途に使われており、皮質はニュージーランド産の羊皮より少しタイトで上質である。

3.3 ヘヤシープとウールシープの中間のタイプ

前述のエチオピアシープを中心としたヘヤシープに加えて、皮革産業の立場から重要視される羊は主として北緯30度から45度の間で飼育されている羊である。

これ等はヘヤシープとウールシープの生息する地域の間際に当たるスペイン、ギリシャ、フランス、トルコ、そしてイラン等から産出する羊皮でギリシャラム以外は平均サイズ55~65D.S./枚と大きく、皮質もヘヤシープとウールシープの中間の品質で、銀面と床面が分離する事も無く、銀面の傷も少ない皮が多いので、衣料用革及び甲革やブーツ等の靴用革として幅広く使用されている。特にスペインラム (スペインラムスキン) はこれ等の用途に最適な素材である。

スペインラムにはエントレフィーノ種 (Entrefino種) とメリノ種、トスカナ種 (Toscana種) 等が有りエントレフィーノ

種は主として靴用、衣料用、手袋用に使用されて居り、メリノ種、トスカーナ種からは主として上質の毛皮（ダブルフェース）が作られている。（エントレフィーノ種からもダブルフェースは作られている。）

ギリシャラムはスペインラムに比べて、少しウールシープがかかって居り、平均サイズが35～45D.S./枚の革は大変ソフトに仕上がるので、主として婦人向けファッション手袋用（ドレス手袋用）として使用されて居る。

いずれにしても、これ等のヘヤーシープとウールシープの中間のタイプの羊革を0.45～0.50ミリと薄くすると弱くなるので、ゴルフ手袋、バッティング手袋等のスポーツ手袋用には使用出来ない。せいぜい0.65～0.70ミリの厚みが使用の限界である。

最近、軽さと手触りの良さを追求するあまり、0.6ミリより薄いスペインラムの衣料用革を見かけるが、着用中等に破れや、穴あき等の事故につながるおそれが有るので注意を要する。尚、上述のラムスキンとは生後1年以内の子羊の皮の事で、生後1年以上の羊の皮のシープスキンと区別している。ラムスキンはシープスキンに比べて少し強度が劣るが、肌目が細かくて柔らかく肌触りが良いので、ドレス手袋や衣料用等に多用されている。

品種によって成長度合いが異なる為、ウールシープのラムスキンはヘヤーシープのシープスキンより大きい物が多い。

尚、羊皮を「ヤンピー」とも云うが、中国語で「羊皮」を「Yángpí」と発音する。ちなみに、「山羊皮」は「Shanyángpí」である。

ここで、それぞれの原産国にてクロム鞣されたクラスト羊革の走査型電子顕微鏡写真を添付する。

電子顕微鏡写真(1)～(3)はヘヤーシープの

仲間、(4)、(5)は中間のタイプで(6)は代表的なウールシープであるがその断面写真において銀面層と網様層の二層に分かれている事がはっきりと観察する事ができる。

3.4 羊の毛皮

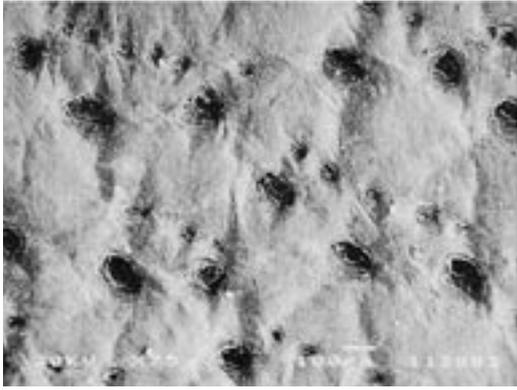
羊皮は毛皮としての用途も多い。床敷物、敷用寝具、シートカバー（車用を含む）及び医療用（床ズレ防止）として使用するムートン（毛の長さ10mm～60mm）や毛の長さを10mm～15mmにカットして、革の肉面をスエード仕上げにしたり、ナップラン加工（スエード面にウレタン樹脂等をスプレーして銀付き革の様に加工した物であるが、不適切な加工の為、経時変化を起し、スプレーした塗膜が剥離したり、ベタ付いたりする事故が起っているケースもあるので注意を要する）を施して両面使用出来る様にしたダブルフェース（Double Face）の製品も数多く販売されている。

ロシアや北欧等の寒い国々では、ダブルフェースで作った衣料やブーツは必需品とされて居り、トルコやイタリア等から多量に輸出されて居る。

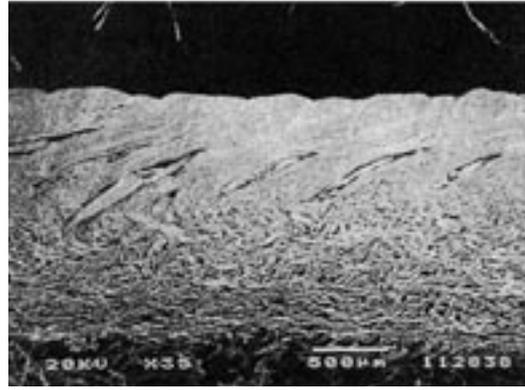
尚、経済産業省からダブルフェース商品の品質表示に関して、下記のように告示されている。

「毛皮で表側をなめした革として使い、裏側がムートンいわゆる毛足のある部分を裏側に使用したコート等の製品は、雑貨工業品の（十一）革又は合成皮革を製品の全部又は一部に使用して製造した衣料品として表示法の対象となります。（革の部分が服の表側の構造材料となっていると解釈されるので。）また、表示方法は、

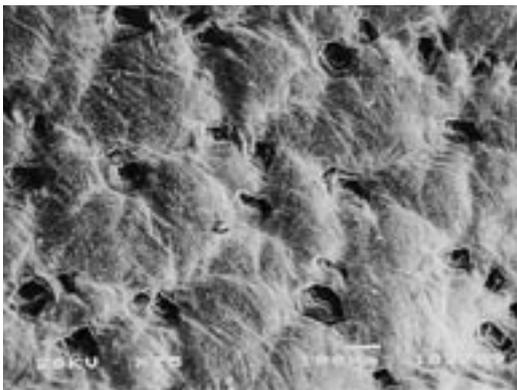
- (1) 材料の種類：羊革
- (2) 材料の種類：羊革（ムートン）
- (3) 材料の種類：羊皮（ムートン）
- (4) 材料の種類：羊皮 毛皮（ムートン）



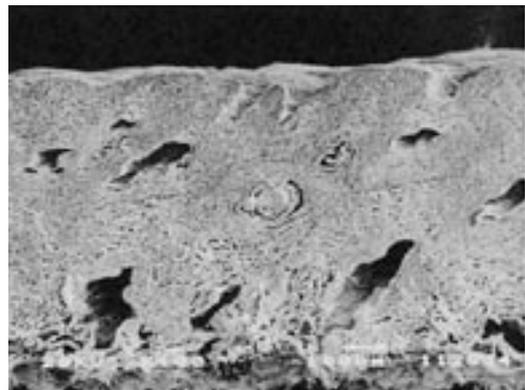
(1) エチオピアシープの銀面 (×75)



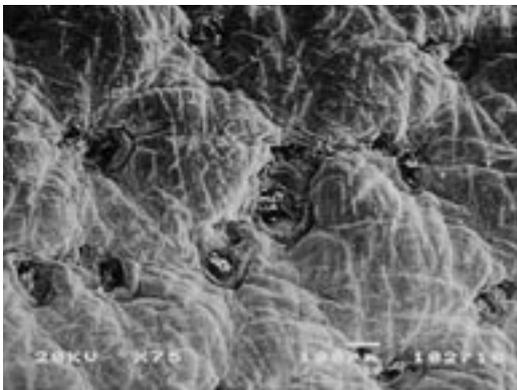
(1) エチオピアシープの断面 (×35)



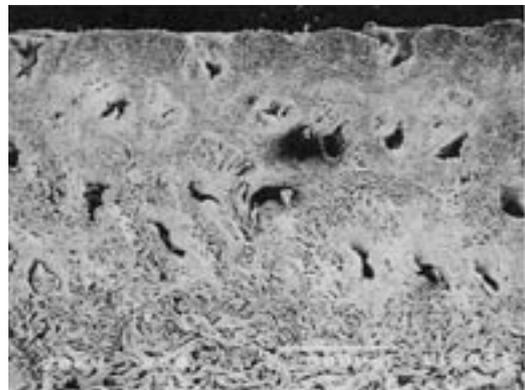
(2) インドネシアシープの銀面 (×75)



(2) インドネシアシープの断面 (×100)



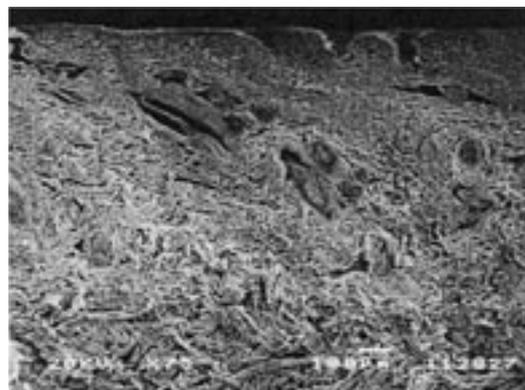
(3) インドシープの銀面 (×75)



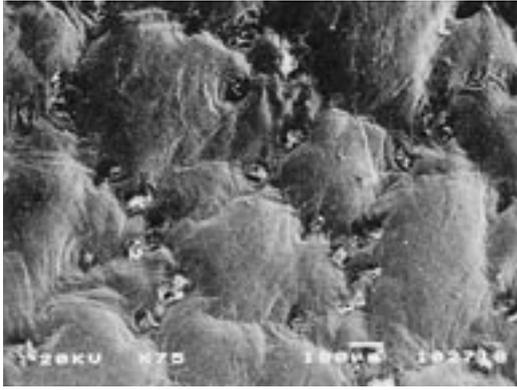
(3) インドシープの断面 (×50)



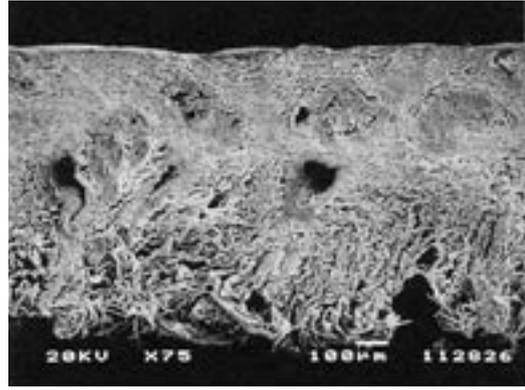
(4) スペインラムの銀面 (×75)



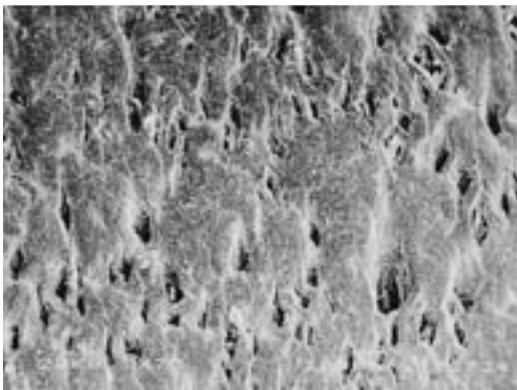
(4) スペインラムの断面 (×75)



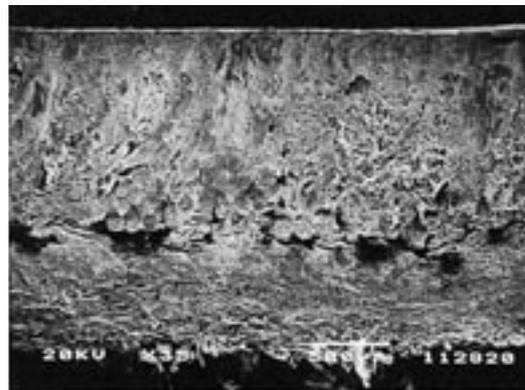
(5) ギリシャラムの銀面 (×75)



(5) ギリシャラムの断面 (×75)



(6) ニュージーランドシープの銀面 (×75)



(6) ニュージーランドシープの断面 (×35)

の革を表に使用しています。
のうち、(3)は不適正、(1)、(2)、(4)の表示が
可能。
(4)の表示をお勧め致します。』

4. まとめ

以上羊革及び羊毛皮の情報の一部をまと
めてみたが、皮革産業はあくまでも毛や肉、
乳製品の為に飼育されている羊の副産物で
ある皮を有効利用するものであり、より付
加価値を高めると同時に地球にやさしい製
品作りが求められている。

参考文献

- 1) ブリタニカ国際大百科事典 15「ヒツジ」 p.610～611

- 2) Best wool clubホームページ、羊の話、
<http://www.woolmark.gr.jp>

*清水産業株式会社

〒532-0033 大阪市淀川区新高5-4-41
Tel.06-6392-5901